

# 水田転作と我が家の酪農経営

豊橋市 白井 貞夫

私は皆様の前で発表するほどの体験など持っていますが、今回このような所で酪農体験を発表する機会をえましたことは非常に光栄であります。

私の家は豊橋の南東静岡県に隣接する旧二川町の一角にあります。昭和40年学校卒業と同時に家に入り、早いもので6年になります。

わが家の酪農概況と家族構成は表1・表2に示すとおりです。

現在おもに父と2人で成牛19頭、育成牛8頭を飼い、飼料畑は225㌥ですがうち90㌥は44年に稲作転換事業により稲作を止めて飼料圃として利用しています。以上が私の家の大体の概況です。

また私は42年に幸運にも県の後継者育成事業により、北海道実習の機会をえました。6ヵ月間ということでしたが、生まれてはじめて親と離れて生活するので多少の不安はありましたが、長い人生のうちにはよい体験になると思いひとりよごびと希望を胸に津軽海峡を渡ったのです。私の実習先は近くに町村牧場また酪農大学などが点在する北海道でも指折りの酪農地帯でした。そして少したつと仕事にも気候にもなれ実際に北海道の酪農の実態に接し、日常の仕事と研修に一生懸命でした。

また私が実習中に感じたことは、乳牛の健康状態が非常によいことでした。乳房炎、ケトージス、その他私の家に見られるような病気はほとんど見られず、質の良い乾草とサイレージを十分に与え1日4~5時間の放牧という所に何か健康な状態に保たせるものがあるように感じました。

また作業にしても全部機械化され、乾草作り、またはサイロのつめ込みと私にとって勉強になることばかりで、6ヵ月

間などすぐに過ぎ去ってしまい、秋の終わりとともに北海道の実態と体験を土産に、ふたたび津軽海峡を渡り家路へと急ぎました。

そして前にのべたように、私は全頭数27頭までになりましたがここ2、3年乳牛の病気が多く、授精率もわるくなる一方で手をやいていました。そこで私は、1日2~3時間の放牧を行ない、また1年ぐらい前から濃厚飼料の配合割合の改善や、自給飼料の多給に努めた結果病気が少しへってきましたが、今後乳牛を健康な状態に保たせるのが私の課題の一つでもあります。

そして、私はより多くの粗飼料の生産のために、44年に水田転換を試み栽培技術の改善を行ない、生産量の増

第1表 経営規模

年度	飼料畑	借地畑	宅地	水田	合計
44	95 a	40	15	90	240 a
45	185	40	15	0	240
備考	水田90㌥中 埋め立てにより畑へ60㌥ そのまま牧草地として20㌥				

第2表 家族構成

続柄	年齢	労力	備考
本人	21	1	酪農全般
父	56	1	ノ
母	52	0.5	家事
祖母	76		
妹	19		学生

第3表 頭数の推移と搾乳量(kg)

項目	年度					
	40	41	42	43	44	45
成牛	8	10	12	12	14	19
育成牛	5	4	6	7	9	8
計	13	14	18	19	23	27
搾乳量	42,673	52,060	66,070	63,300	78,125	112,705
1頭当り乳量	5,300	5,200	5,500	5,300	5,500	5,930

加と質のよいサイレージ作り而努力し（昨年度サイレージ共励会優秀賞）、農産物の残さい依存の酪農から真の牧草で飼う粗飼料主体の酪農にきりかえつつあります。今回の全国共進会を見ても、よい牧草を十分に与えている北海道の乳牛がいかにも良いかがわかりました。

そして前にのべたように、44年度において米の生産調整のため稲作転換事業が関係機関からすすめがあり、昔から作付していた90aの稲作を思い切ってやめ、飼料畑に転換することにしました。このことについては、祖母を初め母はあまり賛成しなかったが、私が北海道で修得した自給飼料主体の酪農経営の話や、当時のわが家の牧草作りの利用実態、また乳牛の健康状態からいかに自給飼料が必要であるかを説明し、説得に成功しその年の4月に排水不良田の60aは埋め立てを行ないサイレージ用としてデントコーンを栽培し、なお水田30aに青刈用デントコーンを栽培し、その跡作にイタリアンライグラス（マンモス）を作りました。

次に第3表に示すとおり、昭和44年と45年の私の酪農経営の概況であり、記録のまとめです。まずこの表の示すとおり、44年に比べて成牛で5頭増え頭数では規模拡大ができました。

また去年は皆さんも苦労された稲ワラのBHC問題では、私も粗飼料の給与には神経を使いましたが、幸いなことに90aの水田を飼料地に転換し、推定で約40,000kgの粗飼料がサイレージとして貯蔵されていまして、大変経営に役立ちました。

次に私の家の労働力は前にのべたように、おもに父と私です。労働力は不足になりがちで、（父母ともに病弱で通院中）特に田植え時期と牧草の収穫時期がかさなり、時によっては立派に成長した牧草も刈らずじまいになっ

第4表 主な施設

種類	数	取得年次	摘要
成牛舎	1棟	257㎡ 43・10	木造 24頭収容可能
牧納舎	1棟	80㎡ 25・6	木造 育成牛舎ワラ
〃	1棟	90㎡ 44・2	飼料車庫
トラック	1台	42・3	1.5t
パキューム	1台	44・5	1,800l 衛生車払い下げ
乗用車	1台	45・7	
耕耘機	1台	43・4	5ps
草刈機	2台	41・4	乗用モーター 背負式
〃	1台	40・4	
カッター	1台	37・11	
尿ポンプ	1台	39・2	
電計機	1台	37・11	1ps
サイロ	3	40・	2.4m×4.5
トラクター	1	44・	3.5ps 共同利用

第5表 収入

項目	年度	44年	45年
販売乳代		3,930,781円	5,670,188円
子牛その他		156,000	210,600
計		4,086,781	5,880,788

支出

項目	年度	44年	45年
肥料代		19,665円	58,545円
購入飼料費 (配合飼料) (粕類)		1,774,295	1,822,445
(粗飼料)		116,315	257,570
種子代		145,000	85,000
家畜保健費		41,815	58,250
授精料		158,662	107,312
土地改良水利費		47,400	32,000
家畜共済費		54,660	54,660
光熱費・その他		74,706	0
計		729,153	1,198,100
		3,161,671	3,673,882

収支

項目	年度	44年	45年
収入		4,086,781円	5,880,788円
支出		3,161,671	3,673,882
差益		925,110	2,206,906

たこともありましたが、水田がなくなってからは酪農専業として作業ができ、乳牛のためにもまた飼料生産にも労働力の配分が適当にできるようになりました。

また転作事業により大型機械も導入し共同利用を行ない、それにより省力化ができ粗飼料の生産もより一層増産ができました。44年と45年の家畜保健費を比べてみると、乳牛頭数は増加しているが支払いは少なくなっており、乳牛の健康にもこの水田転作の効果が現われたかと考えます。

以上の結果第5表に示すとおり規模の拡大と自給飼料の確保また乳牛の健康などに恵まれ、44年に比べ成績が向上し経営も安定してきました。

今後はさらに私は借地などにより飼料畑の確保に努め、大型農機具利用による省力化と、飼養技術改善とあわせて乳牛の改良を進め、牛群の能力向上を計り、1日も早く企業の酪農への脱皮を図りたいと思うのであります。

これでつたない私の体験の一端をのべ、発表を終わらせていただきます。